

分布図情報



諸国一覽大日本道中細見全図 (部分)

菊水屋忠蔵(開板) 若林喜兵衛・大坂屋鋤太郎(板) 作良坊三木光斎(写)

1867(慶應3)年 37×149cm 木版多色刷

この道中図は幕末に作製されたもので、参勤交代や庶民の旅の便に供するとともに、物流の便にも役立つ地図として作製されたものであろう。江戸を起点に五街道をはじめ全国の主要道を通じて確実に目的地に到達できるよう地名の配列をしている。しかし、この図からは距離感は読み取れない。当時の城中や名所・神社・宿などが明記され道中図としての使命は果たしていたものと思われる。海路も示され、海陸の繋がりや島との交流も読図できる。(岐阜県図書館蔵)



■展示内容と作品について

古地図にはそれが作製された時代の姿がよく映し出されており、地理的、歴史的に貴重な情報をわたしたちに提供してくれます。

また、新旧の地図を比較することにより、その地域の変遷を読み取ることができるとともに、ひとびとの地理的視野の広がりや土地への認識、表現や製作方法の進歩なども理解することができます。

昨年度までは日本に目を向け、国内各地の都市の変遷を紹介してきましたが、今回の展示ではアジアに目を向けて、第2次世界大戦後に新興工業経済地域の代表として急速に発展してきたアジアの諸都市を取り上げ、戦前と戦後に作製された新旧の都市図を比較することにより、その変遷を紹介する内容にしました。



「昭南港(新嘉坡)市街地図」
昭和17(1942)年発行

取り上げた都市は、北京・上海・香港・ソウル・台北・シンガポール等、東アジアから東南アジアかけての15都市です。戦前に作製された古地図と現代の都市図の計33図(北京・上海・ソウルは各3図展示)

で各都市を比較していただけるように展示しました。

展示した都市図の中で最も古い時代に発行されたものは明治8(1875)年の北京です。北京については清国、中華民国、中華人民共和国と各時代の地図を展示しました。また、歴史を感じさせる日本語読みの地名を付した地図もあります。日本の都市の変遷と同様に、アジアの都市の変遷についても楽しんでいただけたと思います。



展示風景

■外邦図について

外邦図（がいほうず）は旧陸軍参謀本部及びその直属の独立機関として発足した陸地測量部（現国土地理院の前身）が、明治中期から第2次世界大戦末期にかけて作製・複製した自国の領土以外の地図です。包括する地域はアジアにとどまらず、シベリアから北米、アフガニスタン、オーストラリアにまで及ぶものです。しかしこれらの地図は、軍事機密であったために一般に知られることはほとんどありませんでした。

敗戦時、外邦図は連合国によって接収される可能性があり、またその前に処分されることも予測されたため、学術的価値を見いだした日本の研究者達によってその一部が緊急避難のような形で持ち出され、旧帝国大学等に保存されてきました。

軍事目的で作られた外邦図ですが、大半は、19世紀末から20世紀前期の地表景観の忠実な一般図です。このため、現在詳細な地図の入手が困難な地域の代用物にとどまらず、原図作製時の植生や土地利用などを読み取ることによって地域の環境変化を知る手がかりを得ることができる資料としての価値があり、世界の共有遺産として地球環境問題など様々な場面でその利用への期待が高まりつつあります。



展示の様子

■利・活用について

当館では平成9年度より、東北大学、京都大学、東京大学、広島大学から約14,000枚の外邦図を収集しましたが、16年度以降も収集を継続していく予定です。

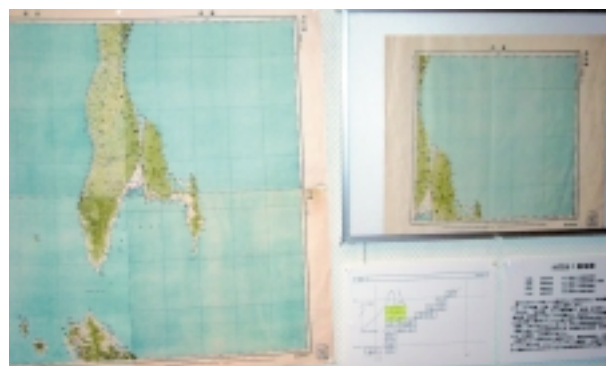
収集した外邦図はその活用を図るため、目録とインデックスマップの作製を行い、インターネットでも閲覧できるようにしてきましたが、歴史資料としての価値をより多くの方々に楽しんでもらうため、所蔵する外邦図を地域別に順次展示・紹介していくこととしました。

■展示の内容と作品について

第1回目となる今年度は、江戸幕府の時代からわが国との交易があり、1905（明治38）年から戦前まで日本の統下にもあった「樺太南部（現在の南サハリン）」を中心とした東アジアを取り上げ、様々な表現と縮尺の地図を展示・紹介しました。

「樺太」南部については、日本からの移民が多く開発が顕著であった地域（「大泊」、^{おおどまり}「本斗」、^{ほんとう}「豊原」等）を選び、同一地域の領有当初と昭和初期の地図を並べて、開発の様子が比較できるように展示しました。

また、古地図（「樺太移民手引草」、「大泊市街全図」等）などの関係資料や領有当時の写真も併せて展示・紹介し、より興味深く見ていただけるように工夫しました。



「南樺太50万分1輿地図」

第10回 児童生徒地図作品展

作品づくりを通して、地図に興味や関心を持ち、生活の中で使いこなす力を高めることを願って始まった児童生徒地図作品展は、10回目を迎えました。今年は、県内の小・中・高等学校から310点の応募がありました。力作揃いの作品の中から16点の入賞作品、44点の入選作品が決定しました。

子どもたちの地図作品の魅力

(1) 生活の中から絞り込まれる魅力的なテーマ

学校での学習の中で、毎日の遊びの中で、新聞やテレビを視聴する中で、疑問に思ったことや、発見したこと、もっと考えてみたいこと等が、テーマに結びついています。「～についてもっと詳しく知りたい!」「みんなに知らせたい!」というその子らしい素直で、強い願いが作品からあふれ出ています。



「Wind-eco
地球温暖化防止への日本各地の挑戦」
岐阜大学教育学部附属中学校 2年 内海 美波



「金華山を制覇 夏の陣」
岐阜大学教育学部附属小学校 5年 加藤 祐奈



「さようなら路面電車長い間どうもありがとう」
岐阜市立本荘小学校 4年 近藤 幹大

(2) 独創的な地図づくり

どの作品も世界でたった一つの地図です。その子だから考えられた、テーマへの取り組み方（地域探検・情報収集など）、地図表現の工夫（材料選び・画面構成・色づかいなど）、地図づくりを通して得た気づきや地域への愛着などが、見る人をひきつけます。

パソコンやカメラやコピー機などを子ども達が楽に操作できる時代です。しかし、観察したことを自分の手で絵や文に表現することは、理解や思考を深めたり、見る人に自分の考えを伝えたりする上で不可欠だということを作品が教えてくれています。



「ぼくのざりがにちず」
大垣市立東小学校 1年 岩下 祐輝

国土地理院長賞



「蘇原第二小学校校区地図」
各務原市立蘇原第二小学校 6年 齋藤 優希

日本地理学会会長賞



「ごみ拾いに出発だ! ~わたしの町を美しく~」
大垣市立赤坂小学校 4年 河合 実乃里

日本地図センター理事長賞



「わたしの町のわくわく公園マップ」
各務原市立蘇原第一小学校 3年 長尾 滉子

(3) 作品づくりによって得られるもの

自分のテーマと向き合い、地図づくりを行って行く中で、地域を見る目が変わっていきます。そして、子どもたちの生活の中に、存在感のある地域が根付き、そこに主体的に関わっていこうという意志が育っていきます。社会に目を向け、その中の一員であることを自覚していくのです。また、ふるさとのおよさを知ることは、他の人、他国のよさ・

考え方を受け入れる基盤になります。地図づくりに取り組むことで、心と視野の広い、豊かな人間性を育てていくことができるのです。

岐阜地理学会会長賞



「岐阜市における9・12災害の足あと」
岐阜市立島小学校 5年
市橋 理恵子

岐阜図書館長賞

- 「やながせのおみせしらべ」
岐阜大学教育学部附属小学校 1年 森谷 一唯
- 「おじいちゃんの畑大研究」
岐阜市立黒野小学校 3年 松尾雄太郎
- 「名字でたんけん山県市大作戦」
山県市立いわ桜小学校 4年 大西 由紀

奨励賞

- 「わたしの大ききなみや川マップ」
高山市立北小学校 2年 中村 美月
- 「1000歩でどこまで行けるかな」
各務原市立中央小学校 2年 八尋 朱音
- 「道の駅ぎふ発42」
岐阜市立長良小学校 3年 松原 来生
- 「ぼくの住む町」
岐阜県立岐阜韮学校 6年 三輪 貴大
- 「なくさないで名鉄600V線マップ」
関市立緑ヶ丘中学校 1年 粕谷 崇史

60点の作品は、10月30日から12月26日まで、世界分布図センターで展示されました。多くの方々が鑑賞され、それぞれの作品にうなずいてみえました。きっと来年度も、見る人の心に作者の思いが伝わるような、素晴らしい地図が多数応募されることでしょう。当センターは、地図教室や資料提供などを通して、地図づくりの応援をしていきたいと思っています。

ただ今、入賞・入選作品60点の写真を収めた記録集を配布しています。ご希望の方は、世界分布図センターまでご連絡下さい。また、ホームページでは、入賞した16点の作品の写真を紹介しています。どうぞ、ご覧下さい。

<http://www.library.pref.gifu.jp/map/index.html>

地図講演会「伊能忠敬の遺功
 —地球図・国土防衛・文化外交への貢献—
 東京大学名誉教授 西川 治先生

地図講演会

7月11日（日）に、東京大学名誉教授の西川治先生を講師にお招きし、「伊能忠敬の遺功—地球図・国土防衛・文化外交への貢献—」と題し開催しました。

西川先生は元東京大学名誉教授で、元日本地理学会会長を務められ、わが国の地理学、地理教育を最先端でリードしておられます。

今回の講演では、近代的日本地図の先駆者「伊能忠敬」の功績を、ご自分のエピソードなどを交えて、興味深く、分かりやすく、講演いただきました。



西川治先生（地図講演会）



伊能小図をフロアに並べて展示

「楽しいよ！ 地図となかよし」

— わくわく地図教室 —

7月22日と23日の両日「わくわく地図教室」を開催しました。講師には、地図研究家の渡辺一夫先生をお招きし、ご指導いただきました。

低学年の部では、方角の学習をした後、オリジナル地図記号を作ったり、によるによる地図をかいたりする中で、楽しみながら地図づくりの基本を学んでいきました。

高学年・中学生の部では、伊能忠敬のように、歩測で地図をつくる活動を行いました。方位磁石を手にし、自分の進む方向を確かめながら図書館内を歩き、地図化していきました。



「ぼくは、地図記号ぐらいしか知らなかったけど、ここに来て、地図がかけるようになってうれしい。」「今日覚えたことをもとに金華山の地図をつくりたい。」「地図なんて、と簡単に考えていたけれど、こんなに手間をかけて苦労をしてつくっているとわかって、驚きました。」

小学校1年生から中学2年生という、幅広い年齢層の子どもたちが参加しましたが、どの子も熱心に活動し、新しいことを知る楽しさ、できることが増える喜びを味わい、地図が大好きになったようです。



平成16年度 事業報告

今年度も、世界分布図センターと情報工房をより理解いただき、地図・分布図に関心のある方々のご要望にお応えするために、様々な催し物や事業を実施しました。

(1) 収蔵展示

館内展示

| | |
|------------------------------|----------------|
| 「古地図の世界ー近代から現代までの都市の変遷ー」 | 【4月1日～5月27日】 |
| 「『地図の日』記念展示ー絵図からコンピュータマップへー」 | 【4月17日～4月29日】 |
| 「外邦図で見る戦前のアジアと世界 ー樺太（サハリン）ー」 | 【5月29日～7月29日】 |
| 「分布図で見る日本の姿 ー生命・安全・失業・環境ー」 | 【8月28日～10月28日】 |
| 「古地図の世界ー江戸から明治にかけての日本人の日本観ー」 | 【1月29日～2月24日】 |

館外展示

| | | |
|-----------------|--------------------|----------------|
| 瑞浪市民図書館 | 「地図のいろいろ」 | 【6月2日～6月27日】 |
| 養老町中央公民館 | 「地図で見る地域の変遷」 | 【7月9日～7月26日】 |
| 可児市立図書館 | 「地図のいろいろ」 | 【7月31日～8月11日】 |
| 岐阜県博物館 | 「古地図の世界 ー道中図ー」 | 【10月2日～11月3日】 |
| ハートピア安八 | 「地図で見る地域の変遷 ー安八町ー」 | 【11月16日～12月5日】 |
| 美濃加茂市中央図書館 | 「古地図でたどる中山道と太田渡」 | 【2月24日～3月19日】 |
| 郡上八幡総合文化センター図書館 | 「古地図の中の美濃と郡上」 | 【3月8日～3月16日】 |

(2) 第10回児童生徒地図作品展 《4、5ページ参照》

(3) 地図講演会 《6ページ参照》

(4) 夏休みわくわく地図教室 《6ページ参照》

- ・世界分布図センターでは、常設展示として、人工衛星NOAAのデータを解析して作成した環境画像を掲示する「リモートセンシングコーナー」や国土交通省国土地理院が作成した地図や画像を紹介する「国土地理院コーナー」を設けています。只今、岐阜県関係分の伊能大図複製を、順次展示いたしております。
- ・岐阜市近郊空中写真（縮尺1/3000）を4月に新しくいたしました。空中散策を鳥になった気分で味わってください。大きさ：5.0m×5.3m
- ・国土交通省国土地理院が作成した余色立体地図（縮尺1/100,000）を12月に更新しました。この地図は、備え付けのめがねの青色を右目に、赤色を左目にあてて見ると、地形の起伏が立体的に見えるものです。地図の範囲は中部地方一帯です。北アルプスの雄大さをお楽しみください。大きさ：4.9m×4.0m

次いで、この地域の土地利用を見てみます。大正12年発行の地形図では、ほとんど桑畑になっています。これは川の沿岸部ではよく見られました。水田はかつての流路を推測させる小さな部分で見られるに過ぎません。このほか、竹藪(竹林)が少し見られます。竹はしっかり根を張り洪水に強く抵抗できるため、敷地のうち、河川上流側にあたる部分に多く植えられていたようです。この地域では堤防で取り囲まれてため、役割が小さくなったのでしょう。

昭和47年発行の地形図によれば、その後、堤防の強化等で水害の危険性はさらに低下し、桑畑にかわって普通畑が多くなってきます。自然堤防を構成する水はけの良い砂地を利用した野菜栽培が行われてきたと思われま。平成12年発行の地形図では、住宅地がさらに卓越した近郊農業地域となっており、農作物は枝豆やほうれん草のほか、大根、カブのような根菜類が多いようです。このように住宅地が卓越してきたのはさらに堤防が強化されたためと考えられます。ただ、昭和51年9月12日に発生した大水害にはこの地域も湛水しています。

以上、同じ地域の年代の違う3枚の地形図を比較して地名と土地利用の変化から地域の特徴を見てみました。そのほか、地図記号なども合わせて読み取れば地域の特徴はもっとはっきりします。

このようにさりげなく日常的に使用している地名(小字名)もそれなりの意味(背景)を持っているのです。現在は市町村合併、都市開発や区画整理事業などにともなって旧来の地名は消えていくことが多いのですが、過去の出来事を蓄積した結果であり、身近な環境を明確に示す標である地名はできるだけ残しておいて欲しいものです。先人の経験と知恵は決して軽んじてはならないと思います。

よく地図を読み、そこに出てくる地名の由来を考え、各種地図記号や土地利用を年代比較することで、より詳しい地域の環境がわかり、その結果、自然災害を避ける方法を考えることもできるわけです。

現在、いろいろな地域で様々な災害予想地図(ハザードマップ)がつけられています。その原点は国土地理院発行の地形図に代表される正確な地図に中にあるといえましょう。

2.5万分の1 地形図「北方」
(大正12年国土地理院発行61%に縮小)

2.5万分の1 地形図「北方」
(平成12年国土地理院発行61%に縮小)

「世界分布図センター」には、13万点を超える分布図・地図、地図関係図書があります。

また、「情報工房」ではコンピュータ及びGISソフトを使ってオリジナル地図や分布図を作成し、印刷することができます。

調査・研究や学習、国内外の旅行の準備等お気軽にご利用ください。

岐阜県図書館

世界分布図センター・情報工房

〒500-8368 岐阜市宇佐4-2-1

TEL (058) 275-5111 (内線286)

FAX (058) 275-5115

URL <http://www.library.pref.gifu.jp/map/>

E-mail mapstaff@library.pref.gifu.jp